

今週（6月29日から7月3日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が440兆円台半ばで推移した。地銀業態を中心に、資金余剰が継続している先が多く見られた一方で、マクロ加算残高に余裕があると見られる大手行からは堅調なビッドが入る展開となった。

無担保コールO/N物は、月末30日に四半期末要因から大幅なレート低下がみられたものの、その後は再びレートが上昇し、▲0.06～▲0.03%近辺での出合いが中心となった。無担保コールO/N物加重平均レートは、30日こそ▲0.068%と低下したものの、それを除けば概ね▲0.04%前後での推移となった。週末3日は取り上がりが見られ、▲0.034%まで上昇した。ターム物は、1～2W物を中心に▲0.065～▲0.05%と低い水準で引き合いが見られた。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、週を通して資金調達ニーズがしっかりしており、月末付近で多少低下したものの、出合い水準は概ね▲0.095～▲0.060%程度となった。

SC個別銘柄では、2Y402～414、5Y136～143、10Y335～359、20Y167～172、30Y59～66、40Y9～13などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、大量発行により需給が徐々に悪化していることから、3M物は▲0.094～▲0.080%出合いと、軟調に推移した。一方で、6Mや1Y物は、短国買入オペにおいて一部の銘柄が対象外となったことが影響してか、出合いはほとんど見られなかった。

30日に実施された短国買入オペは、前回と同額の3兆円でオファーされ、平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差+0.006%と、しっかりした結果となった。

7月3日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.092～▲0.083%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.0962%、按分落札利回▲0.0882%となった。9月末を越えることもあり、按分レートこそ若干上昇したものの、平均レートは低下した。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.105%出合いと、堅調に推移した。

●CP市場

CP市場は幅広い業態において大型発行が見られ、償還総額3,500億円程度に対して、発行総額は約10,500億円と大幅に発行超となった。新型コロナウイルスに対する予防的な資金調達ニーズにより、期明け早々から発行が見られた。6月末時点における市場残高は約23.6兆円と、前月末比では0.7兆円程度減少したものの、前年比では約5.1兆円増加した。なお、29日時点の市場残高は251,716億円と、日次ベースでは過去最高を記録した。今後も一般事業法人のCP活用は一段と積極化していくものと考えられる。発行レートは、日銀のCP買入等によって特段の上昇は見られておらず、概ね0%近辺の狭いレンジで推移している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/29 (月)	21,995.04	0.010	107.22	△ 0.041	△ 0.073	4,448,500
6/30 (火)	22,288.14	0.025	107.72	△ 0.068	△ 0.073	4,470,200
7/1 (水)	22,121.73	0.045	107.69	△ 0.041	△ 0.082	4,470,000
7/2 (木)	22,145.96	0.040	107.48	△ 0.039	△ 0.086	4,442,900
7/3 (金)	22,306.48	0.020	107.50	△ 0.034	△ 0.069	4,454,000

来週（7月6日から7月10日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
7/6 (月)				6月のISM 非製造業景況指数
7/7 (火)	5月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 5月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 6月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 5月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	30Y 9,000億円 7/8発行	交付税借入 10,950億円 7/17借入	
7/8 (水)	6月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 5月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)			5月の米消費者信用残高
7/9 (木)	6月のマネーストック(日銀 8:50) 5月の機械受注統計(内閣府 8:50) 5月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB6M 30,000億円 7/10発行	5Y 25,000億円 7/10発行	5月の米卸売売上高
7/10 (金)	6月の企業物価指数(日銀 8:50)	TB3M 76,400億円 7/13発行	エネルギー 対策借入 7,500億円 7/20借入	6月の米生産者物価指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/6 (月)	▲ 100	▲ 34,400	▲ 34,500	国債買入 ETF買入		9,200 1,000	10,200	▲ 24,300	恩給 TB3M発行▲81400償還48000
7/7 (火)	1,000	0	1,000				0	1,000	
7/8 (水)	0	▲ 5,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	30Y発行▲9000
7/9 (木)	0	2,000	2,000	社債買入		3,000	3,000	5,000	
7/10 (金)	0	▲ 32,000	▲ 32,000	国債売現先(米ドル)	21,100		21,100	▲ 10,900	TB6M発行▲30000償還23000 5Y発行▲25000 個人向け3・5・10Y償還600
週間合計	900	▲ 69,400	▲ 68,500	—	21,100	13,200	34,300	▲ 34,200	

7/6は日銀予想、7/7以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、国庫短期証券の発行超や5年債の発行などによる資金不足が見込まれており、引き続き資金調達ニーズは堅調に推移することが見込まれる。無担保コールO/N物加重平均レートは横ばいでの推移を予想する。また、9日には「2020年7月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。短国買入オペや米ドル用売現先の期日といった各種オペ要因によって日銀当座預金が増大しているものの、新型コロナオペによってマクロ加算残高が増加しているため、基準比率(現在28.5%)は多少引き下げられると予想する。レポ市場は、短国の発行が増加していることもあり、引き続きGC T/Nは▲0.10%を上回って推移することが予想される。短国市場は、9日に6M物、10日に3M物の入札が実施予定となっている。短国の需給悪化が懸念される中、レート水準を含め、市場動向が注目される。また、7日に予定されている短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、期明けの発行がどれほど出てくるかが注目される。

主要なイベントは、特段無い。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入